

第3学年1組 外国語活動 学習指導案

場所 視聴覚室 指導者 福永 真紀子

1 単元名 Unit 6 ALPHABET ～オリジナルニックネームタグを作って、ALTや友達ともっとなかよくなろう！～

外国語の文字に初めて出合うアルファベットの学習では、文字を仲間分けし、チャンツや歌を歌うなどの活動のみならず、文字の形や読み方にも興味をもち「相手に伝えたい」という思いをもって友達とかかわる中で、文字に慣れ親しんでいくような活動を大切にしたいと考える。

そこで本実践では、まず子どもたちが身の回りにある活字体の大文字で表されているものに気付き、アルファベットにはたくさんの種類があることを知る中で、ALTが自分たちの名前をまだ覚えられていないという事実に出合う場を仕組む。そうすることで「自分の名前を分かっしてほしい」という思いをもたせ「ALTや友達に呼んで欲しい名前（ニックネーム）のネームタグを作る」というゴールを設定する。自分や友達の名前の綴りを知り、アルファベットの形を認識したり読み方を言ったり聞いたりすることで、大文字の活字体の特徴を捉えることができる。また、それをやり取りの中で外国語や日本語を交えながらも伝える姿を目指したい。そして、アルファベットの形や読み方に慣れ親しむ子どもの姿を願う。

単元序盤では、活字体の大文字が子どもたちの身近に多く存在していることに気付くことから始まるが、文字の学習で終わってしまうことがないように、単元中盤には、自分なりに仲間分けしたアルファベットショップを出店する。そこで、自分がネームタグに使いたいアルファベットがどの店にあるかを推測したり、必要なアルファベットを尋ねたり答えたりして集める活動を通して、形や特徴の表現の仕方について再考していくことができるようにする。

2 単元について

- (1) 本単元は、子どもたちの身の回りにある活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむことをねらいとしている。しかし、文字の学習に終始せず、コミュニケーションを図る活動も大切にしたい。そこで、アルファベットの形に注目し、仲間分けをしたアルファベットの店を出店する場を設ける。その上で、自分がタグ作りに使いたいアルファベットがどの店にあるのか店名から推測し、店員と客になりきってやり取りをする活動を設定する。単元終末には、作ったネームタグを友達に紹介する活動を取り入れる。自分の名前に使われているアルファベットを知るとともに、友達やALTに名前を呼んでもらうことで、友達や教師との仲もより深まっていくと考える。
- (2) 子どもたちはこれまでに“Hello. I'm --.”という挨拶や自己紹介の表現、また、“Do you like --?” “Yes, I do.” “No, I don't.”などの好きなものを尋ねたり答えたりする表現を学習してきた。本単元では、外国語活動のときに使うネームタグを作る際に、形に着目したアルファベットショップから、自分が使いたいアルファベットを“Do you have a A?” “A please.”などの表現を使いながら探していく活動を行う。店員と客の活動場面では、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現をUnit 7 This is for you. で学習することにもつながると考える。
- (3) 本単元に関する子どもたちの実態は次の通りである。(調査人数36人)
 - ① 外国語活動をたのしんで学習している子どもがほとんどである。その理由は「いろいろなことをどんどん英語で答えられるようになっていくのが嬉しい」「英語で話すのがたのしい」「いろいろな人と話をしてもっと仲良くなれる」と、学習に対して肯定的な子どもが多い。
 - ② 一方で、活動や個別の学習活動において、励ましや声かけなど必要な児童が3人おり、活動時には配慮を要する。

3 単元の見つけ方

- (1) 身の回りには活字体の文字で表されているものがたくさんあることに気づき、活字体の大文字を識別し、文字の読み方に慣れ親しむ。
- (2) 相手に伝わるように工夫しながら、自分や友達の名前に使われるアルファベットの大きさを伝え合う。
- (3) 自分や友達の名前に使われるアルファベットの大きさを相手に正しく伝えようとする。

4 指導計画（5時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1 単元の学習の見通しをもつ。	○ 学校の教室や自分たちが使っている道具などから使われているアルファベットを探したり、見つけたりすることで、身近に大文字の活字体が使われていることに気付くことができるようにする。 ○ 単元の学習計画を子どもと共に立案し「外国語活動のときに使う名札を作りたい」という子どもの思いや願いを聞くことで「ALT や友達に呼んでほしい名前のネームタグを作る」ということを提案する。	【思】自分たちの身の回りにあるアルファベットに気付いている。 (ポートフォリオ、振り返り)
2 3 4	2 オリジナルニックネームタグを制作する。 (1) アルファベットを仲間分けし、店名を決める。 (2) ほしいアルファベットを探したり集めたりする。	○ 26種類の大文字を、形や読み方などの特徴を自分なりに捉え、仲間分けすることで、アルファベットの形や種類の認識ができるようにする。 ○ 仲間分けしたグループの名前を店の名前にすることで、その店にあるアルファベットの文字が推測できるようにする。 ○ 店名から推測しながら文字を探したり集めたりしていくことで、形に焦点を当て、文字への関心をさらに高める。 ○ 店員と客という立場のやり取りでは、困ったことや分からなかったこと、工夫して解決したことなどの表現を共有し、伝え方に着目してやり取りができるようにする。(本時)	【知】26文字のアルファベットの読み方や形に慣れ親しんでいる。(観察) 【思】【主】店員・客の反応や伝えたい内容に応じて、表現を工夫している。／しようとしている。 (観察・振り返り)
5	3 自分が作ったタグや、友達のために作ったタグを紹介し、単元の学習を振り返る。	○ 制作したタグを、グループや全体で簡単な英語や日本語で紹介し合い、互いが使ったアルファベットを見たり、形の特徴や読み方などを考えたりすることで、使った大文字の共通点や使っていない文字などに気付くことができるようにする。 ○ 単元全体の学びや思考の変容を言語化させることで、次の単元 (Unit 7 This is for you.) の学びに生かすことができるようにする。	【思】制作したタグについて、アルファベットの特徴や名前の特徴や読み方など、友達に伝えている。 (発表・観察) 【主】学習を振り返り、次の学習に生かそうとしている。 (振り返り)

5 本時の学習

(1) 目標

ネームタグを作るために、自分が必要なアルファベットを尋ねたり答えたりして探す活動を通して、大文字への興味・関心を高めるとともに、大文字の形や読み方に慣れ親しむ。

(2) 展開

時間	学習活動	学習する子どもの思い・姿
10	1 前時の学習を振り返り、 本時の学習課題をたてる。	○ 前回確かアルファベットを忘れちゃったんだよね。 ○ 店員さんをしたときに、“K please?” って言われて、どの形だったっけ…って迷っちゃったんだ。 ○ 思い出した!“M”と“N”が似ていて、どうしたら伝わるかなって考えた。 ○ ほしいアルファベットがうまく伝わらなかったときは、店員さんに何て言ったら伝わるかな。 ○ 店員さんになったときも、尋ねられたアルファベットが分かって、お客さんとうまくやりとりできたら嬉しいな。 ○ 前の時間、どうやって伝えようとしたんだっけな。
5	2 ほしいアルファベットを どのように表せばもらえる か、伝え方を考える。	○ “K” だったら…たとえば、手とか形で表したらいいんじゃない? ○ 『アルファベットのおうち』を見ながら“Y”に似てる”って言ったら分かってもらえるかも。 ○ たしかにな。その伝え方だったら伝わるかも。
20	3 友達とやり取りをしなが らアルファベットステッカー を集め、ニックネームタ グを完成させる。	○ よし、ショップを開店してみよう! ○ “Y please.” えーっと『アルファベットのおうち』の「シャツのくび」のところの文字だよ! ○ あ〜分かった!“Yes! Here you are.” ○ “Thank you. See you!” やったー! これでネームタグが完成したぞ。アルファベットを言いながら『アルファベットのおうち』を指さして言ってみたら、欲しいアルファベットがもらえた! ○ さっきのお店では指でかいても伝わらなかったなあ。次のお店では言いながら指でかいてみようかな。 ○ ゆっくりははっきり言ったら伝わった!
10	4 本時の学習を振り返る。	○ 私はアルファベットがどれか分からなくなったけれど“F”に似てる…”って言われて「あっ、“E”だ」って思いました。 ○ ぼくはアルファベットのおうちの文字を指さして伝えたらもらえました。“K”「ケー」「M」「エム」「N」「エヌ」が迷わずに言えました。 ○ みんなの考えを聞いて、伝え方が他にもあることが分かりました。私は手で表してみるのもいいと思ったけれど、そら書きしてみる方が友達に伝わりました。



子どもたちはお店屋さんの活動をたのしみつつも、「上手く伝わらなかった」「アルファベットを集められなかった」という思いをもっています。伝え方の表現方法や工夫を見いだしたり考えたりし、アルファベットの形や読み方を考えながら、ネームタグの完成を目指します。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 前時の「(活動中) ほしいアルファベットを忘れてしまって困った」という振り返りを取り上げ、具体的な場面を想起することができるように、教師がそのときの状況を話す。その中で「そういえばお客さんに“K” please?と言われたけど“K”がどれだったか忘れてどうすればいいか迷った」「“M” please?と言ったけど“N”と似ていて伝わらなかった」というような困り事を全体で共有し、表現や伝え方について考えることができるようにする。
- 「店員さんに言ってみたけど上手く伝わらなかった」「お客さんがどのアルファベットを言っているのか分からなかった」という発言に対して、どのようにすれば自分がほしいアルファベットをもらったり、渡したりすることができるかを問うことで「こんなふうに伝えてみたら分かるかも」「もっと表現を工夫したら集められそう」といった発言を引き出し、表現の工夫に焦点を当て、本時の課題を設定する。

自分も、友だちも分かるようにするためにはアルファベットのことをどう伝えたらよいだろう。

- “K”の伝え方について、手や体を使ってジェスチャーをしながら形や特徴を伝えたり、模造紙を見ながら似ている文字と関連させて伝えたりするという工夫を出し合い、その場でやってみることで、次の活動の中で使える表現を見つけたり、その工夫を使ってやり取りをしたりすることができるようにする。
- 子どもたちが前半・後半で店員・客のやり取りを交代しながら活動をする中で困ったときには、子どもの伝え方の工夫を黒板に残しておいたり、単元を通して子どもが表現していたアルファベットの気付きや特徴などを書き留めた模造紙を掲示したりすることで、そこに立ち返ることができるようにしておく。
- ステッカーが集まっている子どもには、どうやって伝えたのかを問うことで伝わった伝え方を価値付けたり、集まっていない子どもには、どう伝えてみたのかを問い、どうしたら伝わるのかを一緒に考えたりすることで伝わる伝え方を見つけることができるようにする。
- 活動の後「友達に伝わった伝え方はあったか」と子どもたちに問うことで、活動をふり返り伝わった表現や工夫したことが分かるように全体で共有する。
- 振り返りでは「やり取りの中で気付いたこと」「ほしいアルファベットを尋ねるときにどんなことに気を付けたり、やってみたりしたのか」について振り返りを記述することと「言えるようになったアルファベット」をタブレットの音声機能で録音するよう促す。
- 互いの学びや気付き、嬉しかったこと、活動時の表現のよさや工夫などをいくつか交流し、自分の表現や思いと比較することで、友達の表現や考え方のよさ、違いに気付くことができるようにする。

【教材・教具】

- アルファベットの気付きや特徴などを書き留めた模造紙
- アルファベットステッカー

【評価】

- やり取りの中でアルファベットの形や読み方を使ったり、言語表現、非言語表現を用いたりするなどの工夫を行いながら、アルファベットカードがあるか尋ねたり答えたりしようとしている。
(行動観察・振り返り)